

# も く じ 今号の内容

## ●学校改革プロジェクト支援事業の成果報告会の開催のお知らせ

【教育政策課】 P 1

教職員が児童生徒と向き合う時間を確保し、学校の課題解決を図る「学校改革」に取り組んでいるモデル校が、取組みとその成果を報告します。

## ●平成26年度（第15回）熊本県立教育センター研究発表会の御案内

【熊本県立教育センター】 P 2

県立教育センターでは、今年度より『21世紀型能力』の育成に向けた児童生徒の主体的な学習の創造～各教科等、領域における協働・協調的な学びを通して～のテーマの下、研究協力員とセンターが協力して研究に取り組んできました。その成果を発表します。

## ●「くまもと教育の日」県民フォーラムを開催しました！

【教育政策課】 P 4

県教育委員会では、「くまもと教育の日」の取組みの一環として、11月1日（土）に県民フォーラムを開催しました。

当日は、各種表彰式、弁論発表、大八木淳史氏による講演を盛況のうちに実施することができましたので、その概要を紹介します。

## ●新たに「学校事務センター」が設置されました！

【学校人事課】 P 5

今年度から、菊陽町・益城町・阿蘇市・天草市に設置された「学校事務センター」について説明します。

## ●くまモンが先生となった教育活動推進事業

【社会教育課】 P 6

社会教育課では、県内（熊本市を除く）の放課後子ども教室や学校支援地域本部等を実施している学校に「くまモン先生」を派遣して、活動の充実と活性化を図っています。

## ●「伝えよう～話す勇氣・気づく力～」～熊本県人権子ども集会を開催～

【人権同和教育課】 P 7

県内の学校や地域から8,000人を超える参加のもと、子ども実行委員会の運営により、体験・活動報告、全体活動、集会アピール採択を行いました。

●人権尊重の視点に立った学校づくり

【人権同和教育課】 P 9

人権尊重の視点に立った学校づくりについて、すべての教職員が自らの課題として捉え、実践に生かしていただくために、平成 25・26 年度人権教育研究指定校の取組を紹介します。

●平成 27 年 4 月に開校する新設高校 3 校を紹介します！

【高校教育課】 P 10

県立高校の再編・統合により平成 27 年 4 月に荒尾・玉名地域、天草地域に開校する新設高校 3 校を紹介します。

●特別支援教育なう Vol. 9

【特別支援教育課】 P 13

熊本の特別支援教育の今がここにある！

●学校の取り組み

○【ものづくり全校プロジェクト】5つの力を1つに！～エコハウスの製作～

【県立小川工業高校】 P 14

5つの学科（機械、建築、土木、設備工業、情報電子）が協力しながら、それぞれの学科の特色を活かして「エコハウスの製作」に取り組みました。

○夢の実現を目指す人づくり～二高SSH みつめる・きわめる・つなげる～

【県立第二高校】 P 15

二高SSHは、みなさんとつながりたいと思っています。

○平成 26 年度第 29 回大津高校チャレンジ大会

【県立大津高校】 P 16

大津高校では、11月21日(金)チャレンジ大会(持久走大会)を行いました。天気にも恵まれ、765人が、Aコースを完走(歩)、完走(歩)率も過去最高を記録しました。長い時間を掛けて取り組んできたチャレンジ大会の様子を紹介します。

○技能五輪全国大会～次代を支える若者の挑戦～

【県立北稜高校】 P 18

技能五輪全国大会造園職種に熊本県代表として高校生が初出場しました。大会までの取組と大会での奮闘ぶりを紹介します。

## ○視覚支援に役立つタイムタイマーの製作

【県立鹿本商工高校】 P 2 0

「自閉症の生徒たちは決められた時間に対し、残りの時間が後どれくらいあるのかというのを普通の時計を見て判断するのが苦手」ということを聞き、時間の構造化（人の時間の使い方のこと）・視覚支援に役立つタイムタイマーを、課題研究を通して製作することにした。

## ○研究実践発表を通じた他校との交流を図る取組

【県立荒尾支援学校】 P 2 2

本校では、本校の学校課題に基づき組織としての専門性の向上と個人の実践力の向上をめざして、一人一人が事例研究を通して意見交換を促進する取組をしています。また、外部へ積極的に情報発信する事により、さらなる研究の質の向上を図っています。今回は、本校の今年度の取組と外部に御向けた新たな取組を紹介したいと思います。

## ○今に甦った 装飾古墳館の絵柄たち～ひのくに高等支援学校の試み～

【県立ひのくに高等支援学校】 P 2 3

1500年前の古人の考えた文様と時空を超えて本校の生徒達の作品が結びついた今までにない取り組みであり、制作を通して、日頃は向き合うことの少なかった熊本の歴史に触れる機会及び新規の製作に取り組んだことを紹介します。

## ○中学部進路学習「天草クリーンカンパニー」～地域の清掃活動の取組を通して

【県立天草支援学校】 P 2 4

天草支援学校では、11月に進路学習「天草クリーンカンパニー」の一環で、地域の清掃活動に取り組みました。その活動について紹介します。

## ○安全でおいしく楽しい給食の時間をめざして

【県立黒石原支援学校】 P 2 5

本校では一人一人の児童生徒の実態に応じた給食の形態、支援の方法の工夫などにより安全でおいしく楽しい給食の時間をめざしています。学校生活の中で、大きな位置を占める学校給食をさらに充実させることで、児童生徒の自立した生き方の実現につながるようになっています。

## ○デュアルシステムによる就業体験実習

【熊本県立松橋支援学校 高等部 氷川分教室】 P 2 7

本校高等部氷川分教室では、生徒の進路実現と地域との連携を目指して、デュアルシステムによる就業体験実習を分教室周辺の事業所でスタートさせました。

○働きながら学ぶ、学びながら働く～デュアルシステム型作業学習の取組～  
【県立熊本支援学校 高等部 東町分教室】 P 28

東町分教室では、作業学習にデュアルシステムを取り入れました。学校での学びを現場（社会）にて実践し、その実践を通して学んだことを更にフィードバックし、学びの累積化を図っています。生徒自らが自己の課題を整理し、一つ一つステップアップできるよう、学校と地域（事業所）が連携し、継続的に生徒の就労に向け、支援を行っていく新しい取組を紹介します。

○企業担当者を対象とした学校公開～本校への理解及び啓発に繋げる取組から～  
【県立ひのくに高等支援学校】 P 29

知的障がいのある本校の生徒達が、就職、社会自立するためにあらたなステップの場としての取り組みです。

○「生徒の卒業後の就労に繋ぐ」～「くまもと物産フェア」での販売実習の取組み～  
【県立ひのくに高等支援学校】 P 30

平成13年度に開校した本校の生徒は、卒業後の就労を目指し現場実習に行きます。その現場実習先である商工会の婦人部部長よりへの参加依頼があり、最初の年は、その婦人部の販売場所の一部をお借りしてのスタートでした。それ以来、販売場所の提供をして頂き、後に専門高校の中での販売をすることになり今に至っています。物産フェアのポスターの中にも学校名を入れて頂き、年々本校生徒の販売活動も知れ渡り、物産フェアの実行委員会には本校製品の問い合わせがあるなど盛況の中で生徒達が販売活動に取り組んでいます。

●小・中、地域連携を基盤とした子どもたちの自立支援事業  
【上益城教育事務所】 P 31

御船町では、児童生徒の健全育成に向け、小・中学校間の連携や地域のネットワークを活用した実践的な取組を継続して行っています。

●第3回 鞠智城跡「特別研究」成果報告会の開催について  
【鞠智城・温故創生館】 P 32

熊本県の宝である鞠智城。一般公募で選ばれた5名の若き研究者たちが様々な視点での鞠智城研究の成果を発表します。

●細川コレクションⅣ・美術館コレクションⅣ特集展示のご紹介  
【熊本県立美術館】 P 33

細川コレクションⅣでは細川家に興入れし、幕末維新时期を生きた鍋島家のお姫さま・宏子を細川家、鍋島家の両側面からとらえます。また、美術館コレクションⅣは文化勲章を受章した、熊本を代表する画家・牛島憲之の作品をまとめた形で鑑賞できるまたとない機会となっています。ぜひ、熊本県立美術館で優品の数々をご堪能ください。